

浜松ユネスコ協会

UNESCO HAMAMATSU

ユネスコ会員綱領

- 心の中に平和の守りを固めよう
- 教育・科学・文化の発展に努めよう
- すべての人間の尊厳を重んじよう
- 民族間の疑惑と不信をのぞこう
- 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

No.172

2018.12.15

発行：浜松ユネスコ協会

発行人：会長 小島逞壯

TEL (053) 463-0458

FAX (053) 463-0458

編集(広報委員会)阿部行俊

第4回科学教室 「富士山の自然」 ～安全への初心を忘れず～ 富士山はやっぱり日本一

6月30日(土)

富士山での科学教室は、子供たちがとても楽しみにしている活動です。家族での参加も年々増加しており、富士山での活動は子供たちの貴重な体験だと思います。しかし、登山である以上、参加者の安全が最も重要です。20年以上続く活動ですが、現在まで事故はありません。それが、私たちの安全に対する気の緩みにつながっていないだろうかとの再確認の必要性を感じた今回でした。



1号車のみなさん

毎年実施している下見も例年以上に慎重に行いました。6合目から宝永火口へ向かう登山道は毎年変化しています。火口入口から火口へ向かう登山道が例年より狭く、岩の段差も大きくなっていることを確認しました。「300年前の宝永噴火。その火口に立つ。そこで感じるもの。」子供たちの感動は大きいのですが、子供たちの安全が最重要と考え、火口入口までの登山としました。

雄大という言葉の意味が刷新されそうな感覚がする迫力と美しさの宝永火口。バスの中で、学んだ富士山の成り立ちや岩石、植物の知識がスパイスとなり、富士山の凄さが子供たちの心に残ってくれたと思います。

参加者183名 スタッフ22名 (阿部行俊)

～ 参加者の感想 ～

富士山には、たくさんの植物、昆虫、鳥などがいて、石もたくさんの種類がありました。水の沸騰実験では、学校でやった実験と比べて約10度も低い温度で沸騰したのでびっくりしました。気圧の実験では、もってきたお菓子の袋がパンパンにふくらんで割れそうでした。帰って来たらペットボトルはつぶれていました。お菓子の袋はもとにもどっていました。

火口の穴は、でかくて落ちそうでこわかったです。とてもきれいに遠くまで見えて良かったです。富士山を下から見ると植物が生えることができる高さがはっきり分かりました。

風穴の中は寒くて水が流れ落ちていました。風穴から出たときは、メガネがくもっておもしろかったです。（抜粋）
(篠原小5年 那須田 樹)



水の沸騰実験



やや登山に不安がありましたが、気持ちの良い風と間近で見る圧巻の山、石の一つ一つにも興味を持ちながら、思い出深い宝永山火口に至りました。火口の様子をもっと見ていたい気持ちでした。

駒門風穴の外界と異なる神秘的な世界も富士山がもたらす自然の産物であり、深く関わり合いがあることが一枚一枚スケッチブックに描かれた絵と説明で理解することができました。

一日、案内と興味を持てるように分かりやすく説明して頂いたスタッフの方々に感謝します。子供たちの体験や知識を色々な角度でアプローチしていただきありがとうございました。富士山の石を見ながら親子の会話もはずみそうです。（抜粋）（附属小学校 保護者）

第5回科学教室 「郷土の自然史 天竜川の岩石」

継続は力なり 見えてくる真実

10月13日(土) 於:天竜川 西鹿島

毎年、教室生たちが岩石採集をする場所は、天竜浜名湖鉄道の鉄橋をやや下流にいった天竜川の右岸です。その年の川原しか知らない教室生たちには気付かないことですが、永年取り組みを続けているスタッフは、川原の変化が分かります。「浸食」「堆積」といったダイナミックな「流れる水の働き」が顕著に現れている場所を的確に見つけることが、この講座の成功の元なのです。



印刷のエキスパート

株式会社開明堂

TEL <053> 471-6231 (代) FAX 473-0778



遠州鉄道グループ

ホテルコンコルド浜松

近年、対岸の鳥羽山公園下の左岸の川原は年々広がっているのに対し、活動している右岸は草が増えてきたり、川原が浸食をうけて狭くなったりして、少しずつ活動しづらくなっていました。ところが、今年の川原は、台風の影響もあってか、昨年とは随分様子が変わっていました。10年ぐらい前の川原がまた戻ってきたかのようにも感じられました。

毎年の活動ではありますが、活動場所はスタッフが事前に現地の状況を見て決定し、子供たちが川原まで下りられるよう草刈をしています。今年も子供たちが夢中になって標本を完成させ、岩石の面白さに気付くことができたと思いました。そのとき、私たちスタッフは喜びを感じます。(竹内孝夫)



活動日に備えての草刈り

第6回科学教室 「秋の自然観察」

見つけた ブナ科の木の実8種類

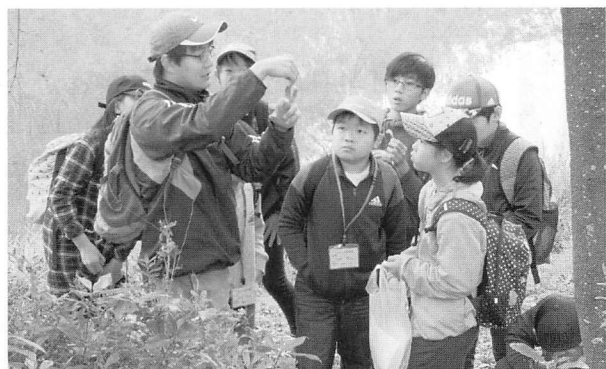
11月3日(土) 於:佐鳴湖公園



「どうしたのだ！」下見に訪れたときの素直な感想でした。

台風の影響なのでしょうか。例年と同時期の開催なのに、今年の佐鳴湖公園の木々の姿は違いました。落葉樹の紅葉は、ほとんど見られず枯れ落ちていました。

それなら、ドングリに集中しよう。ブナ科の木の実8種類をしっかりと分類して集めていきました。堅果・殻斗・葉の3つ観点で、同定しながら採集しました。



アラカシとシラカシとを見比べ、堅果の頭部の形状から「ほんとだ。違う、違う。」と同定できるようになりました。シリブカガシを磨きピカピカにして楽しむこともできました。

また、落ち葉の間から見つけたコナラの堅果には芽が出ているものがありました。木の実は、命のつながりの原点であり、森や林の中で長く営まれていることを確認することができました。

(加藤泰弘)

2018年度 「中部東ブロック・ユネスコ活動研究大会 in 諏訪」に参加して

〈大会テーマ〉『Better World』 ～ より良い社会の実現をめざして ～

9月29日(土)・30日(日)

於:RAKO 華乃井ホテル(長野県諏訪市)

地域の枠を越えた情報交換やテーマに基づく研修を目的として年に一度行われるブロック別研究会が、今回は歴史や伝統文化遺産に恵まれ、風光明媚な長野県諏訪市で開催されました。長野、山梨、神奈川、静岡の4県から約170名が、浜松ユ協からは小島、大石、加藤、岡田と私の6名が参加しました。

私たちの住んでいる地球は、世界は、日本は、そして身近な地域はどんな問題を抱えどんな方向へ向かっているのか。核の問題、環境問題、延いては異常気象による災害が起こっている中でユネスコはどう対応すべきか。お互いに課題を共有し、「Better World」の実現に向かって議論を深めようとの開催趣旨の下、盛り沢山のプログラムが用意されました。

1日目の前半に行われた山口 哲氏(鳥類研究者)による記念講演「絶滅鳥類の復元—コウノトリの場合—」ではレッドリストに載るコウノトリの野生復帰の取り組みが、数奇な運命を辿ったコウノトリ「げんき君」の半生とともに紹介されました。事業は試行錯誤を繰り返す中で成果を収め、今年は野外個体数が130羽を超えたとのこと。絶滅種1種の野生復帰は健全な生態系を取り戻し、また同時に私達人間にとっても暮らしやすい環境を復活させることであると話を締め括られ、改めてその大きな意義に気付かされた想いでした。

後半の「研究発表」では、①「信州ESDコンソーシアムの取り組み(信州大学生ほか)」、②「第8回ESD国際交流プログラム活動報告(長野西高校生)」、③「縄文科学習の実践記録(茅野市立永明小学校〈ユネスコスクール認定校〉の教諭と児童)」のESD活動関連3件の発表が行われました。

永明小学校の「縄文科学習の実践記録」では4年生児童9名も登壇し、郷土の縄文土器や埴輪を学習材とした「縄文科」学習の取り組みの様子を披露。1万年もの間、平和を愛し自然と共生してきた縄文人に学ぶべきことを私たちに語りかけてくれました。

2日目当日は台風24号接近が予想され、私たちはユネスコ連絡協議会(会長が参加)を以て予定を切り上げ、早めの帰途に就きました。

次回のブロック別研究会は来年11月に磐田市で開催されます。

(三輪宜弘)



(記念講演) 鳥類研究者 山岸 哲氏



浜松ユ協メンバー

第50回中日教育賞 櫻井敬子氏 晴れの受賞

外国人の子供たちに大きな夢を

本年度、櫻井敬子氏が中日教育賞を受賞しました。中日教育賞は、中部九県の教育現場で地道な取り組みを続け、優れた業績を挙げている教育者と団体を顕彰するものです。櫻井氏は外国人児童生徒への日本語指導体制を築き、外国人が多い浜松市の指導モデルを作り上げました。現在は、浜松市教育委員会外国人支援グループ長として活躍しています。また、浜松ユネスコ協会では親子公園探検隊の講師をされています。

日本語と教科の統合

初めて外国人担当となったところ、日本語を教えなければという思いが強く、「日本人というだけで日本語を本格的に勉強したことのない私が教えていいのか。」「日本語を教えるために教師になったのではない。」という不本意な思いが交錯していました。しかし、東京学芸大学で開かれていた研修会に参加した時に日本語と教科を統合して教えることについて聞き、教科指導ができるとうれしく思ったことを覚えています。



中日新聞より

子供たちの自己肯定感

私が担当になったところから、浜松市では外国人児童が急に増えていきました。自己表現する手段を持たない外国人児童はストレスを抱えていました。当時の校長から「日本語指導が必要な外国人児童をできるだけ取り出して指導を」と言われました。そこで、校内の職員にも協力してもらい、学年で国語科、算数科の時間割をそろえ、高学年では社会科の時間割もそろえてもらいました。複式学級のように2学年を同時に指導したり下学年の教科書を使用したりと試行錯誤しました。しかし、在籍学級と同じ教科書を使い、レベルに応じた指導を行うのが良いと考えるようになりました。取り出しをされることにより子供たちの自己肯定感を下げたくなかったからです。

外国人児童を取り出し指導し、その子供が教室に戻っていく時に「先生、よく分かった。ありがとう。」と言ってくれたことが忘れられません。

目を輝かせた希望

外国人児童やその保護者にとって必要なことは、日本語指導だけではありません。日本人の子供であれば、子供の成長の過程で保護者がアドバイスできることや進学に関わることなどです。私が知っていることを、知らせる機会をもつようにしました。その一つが外国人の先輩に来てもらい子供たちの前で話をしてもらおう機会を作るようにしたことです。



浜松で活躍している外国人に来てもらい子供たちの前で話をしてもらいました。将来、親と同じ工場で働くという希望しかもっていなかった子供たちが、目を輝かせて聞いていたことが印象的でした。

外国人児童だから特別な支援が必要と考えるのではなく、日本人と同じように自律した学習が成り立つようにするには、どのような指導が必要なのか考えて、日本語指導体制をさらに進めています。（櫻井敬子）

第3回 親子公園探検隊

「晩秋の自然 in 浜松城公園」

親子で歩いた道は生涯忘れない

11月24日(土) 於：浜松城公園

例年の浜松城公園は、緑色から紅色へとグラデーションに色づくイロハカエデやニシキギに出会えます。しかし、台風24号がもたらした暴風や塩害のため、すっかり葉を落としてしまい、少しの寂しさがありました。

コナラの周りの落ち葉をかき分けると「もう根を出しているコナラのドングリを見つけたよ。」の歓声があがります。ミズナラやアラカシ、マテバシイなどの堅果と殻斗も採集しながら特徴を比べました。

黄葉しているヤマノイモのむかご。赤と黒の2色がおしゃれなトキリマメの種子。押しくらまんじゅうのように毛と種子が詰まっているプラタナスの実。じっくり観察したり、ほぐして飛ばしたりしました。

熱帯のウリ科の植物アルソミトラのモデル実験を行いました。うちわ型の扁平な実の中に種子が1つ。子供たちは高い台に立ち、そっとモデルの翼果を手から放すと、ふわりふわりと風に乗って旋回します。親子共々、心動かされる一時です。

植物は、その場を動かないけれど、種子にはいろいろな特徴があり、風や動物などを利用して木の樹木から旅に出ることを親子で実感することができました。



親子公園探検の素敵なところは、子供の発見や喜びを見て、いっしょに親も知る喜びを感じるところだと思います。このような自然の巧みさを実感する原体験は、自然を愛し、守り続ける心をつなぐことにつながっていくのではないかと思います。

(鳥井みのり)

ユネスコ生涯学習セミナー

自分づくり講座『自分らしさとは』

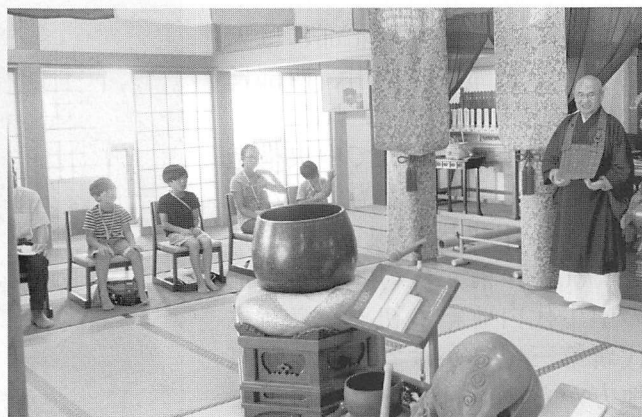
8月8日(水) 於：仙林寺

講師 仙林寺住職 杉山 晴康 氏

例年になく厳しい暑さの中、仙林寺(浜松市中区野口町)にて、4回目の生涯学習セミナー『自分づくり講座』が行われました。

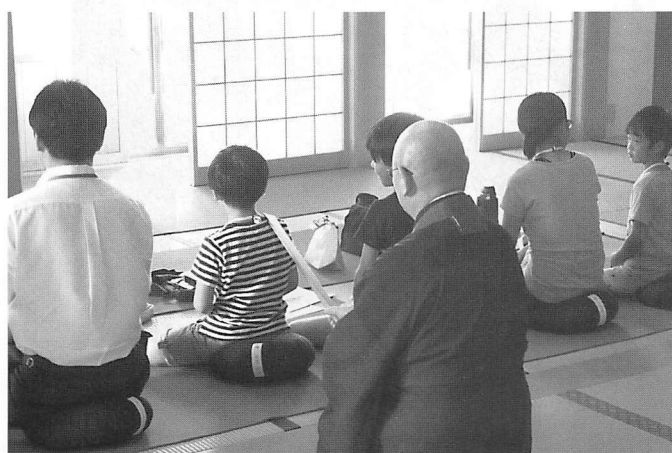
あいさつをした後、般若心経を全員で声に出しました。講師の声にそろえて、みんなで一緒に行うことで、心が落ち着き参加者の気持ちも一つになります。

坐禅の作法についての所作を学びました。合掌の仕方、入堂の仕方、隣位問訊(座る両隣の人への挨拶)・対座問訊(座る向かいの人への挨拶)、足の組み方、手の組み方、視線の位置、姿勢等です。静かに深呼吸をした後、体を左右に振りだんだんと小さい振りにして静止して座禅が始まります。ようやく正しい姿勢になり静かな空間に身を置きました。



昼食時には食事への感謝を学びました。「いただきます」は、食材となった動物や野菜の命への感謝です。「ごちそうさま」は、もてなすため一生懸命に食事を用意してくれた人への感謝です。

午後は、宮澤賢治の「雨ニモ負ケズ」の視写をしました。詩の内容を理解した後、集中して視写をしました。



参加者からは、「お寺のことがいろいろわかって楽しかった。」「穏やかで平静な気持ちになりリフレッシュできました。」などの感想がありました。(岡田義生)

内科・消化器科

西 脇 医 院 院長 西脇雅子

中区和合町176-58 ☎ <053> 412-5355

西遠は「未来を拓く女性」を育てます。

伝統の中高一貫教育／地域唯一の女子教育／新しい課題探究型学習

入学相談は随時受け付けております。

パンフレットでは伝えられない学園の雰囲気を是非御覧ください。



静岡県西遠女子学園 中学校・高等学校

TEL:053-461-0374 WEB:www.seien.ed.jp

自主研修会

～東三河の臨地研修を楽しむ～

9月15日(土)

東三河の地域には、茶臼山、本宮山、鳳来寺山などの山々が連なっています。東北部には天竜川、中央部には豊川、西部には矢作川が流れています。

また、豊川に沿って中央構造線が通っていることも大きな特徴です。中央構造線とは、約1億4500万年前から約2000万年前の中生代白亜紀の初めから新生代新第三紀にかけてできた関東地方から西南日本を九州付近まで縦断する大断層です。

さらに、約1500万年前の新生代新第三紀に活動した火山の痕跡が見られることも、この地域の地質の大きな特徴です。そのため、東三河ジオパーク構想も始まっています

このように興味深い特徴をもつ東三河の地質や地形、岩石等などについて、今年は16名が参加して自主研修会を行いました。

初めに、鳳来寺山自然科学博物館で、興味深く東三河の地形の成り立ちや岩石、化石などについて話を伺いました。太古の火山が地質に大きく影響していることなど興味深い東三河の成り立ちを聞いた後、実際にフィールドを訪れ、結晶質石灰岩（大理石）や海オパールを採集しました。そして、最後に、中央構造線の露頭を見学し、大地の成り立ちを実感することができました。（袴田正義）



鳳来自然科学博物館



フィールドワーク

あなたも一緒に
会 員 募 集

問い合わせ・申し込み
事務局 三輪 宜弘
■ 053-425-8643

会員動向

会員数（2018.12.4現在）

賛助	法人	維持	理事
31	1	6	40
普通	学生	合 計	
45	0	123	



※再生紙を使用しています。